

君津市常代遺跡

—宮下川河川改修埋蔵文化財調査報告書—

平成9年3月

千葉県土木部

財団法人 千葉県文化財センター

君津市常代遺跡

——宮下川河川改修埋藏文化財調査報告書——



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告書第310集として、千葉県土木部の宮下川河川改修事業に伴って実施した君津市常代遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の礫群が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が、学術資料として、また、君津市や上総地域の歴史を知る資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成9年3月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長 中村好成

凡　　例

- 1 本書は、千葉県土木部君津土木事務所による二級河川宮下川河川改修事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県君津市常代845及び宮下8街区8に所在する常代遺跡（遺跡コード225-009）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部君津土木事務所の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業は、調査研究部長 西山太郎、南部調査事務所長 高田博の指導のもと、研究員山田孝雄が下記の期間に実施した。
発掘調査 平成8年8月1日～平成8年8月30日
整理作業 平成9年1月7日～平成9年1月31日
- 5 本書の執筆は、研究員 山田孝雄が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、川名政夫氏、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部君津土木事務所、君津市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「鹿野山」(N-54-26-1-1)
第2図 君津市役所発行 1/2,500 都市計画図「E-6」
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方針は、すべて座標北である。

本文目次

Iはじめに	1
1 調査の概要	1
2 遺跡の位置と環境	1
(1)遺跡周辺の地理的環境	1
(2)遺跡周辺の歴史的環境	3
II検出した遺構と遺物	6
1 調査成果の概要	6
2 旧石器時代	7
(1)基本層序	7
(2)石器群の概要	7
(3)第1文化層	7
(4)第2文化層	7
3 旧石器時代以降	15
(1)遺構	15
(2)遺構外出土遺物	17
IIIまとめ	18
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 常代遺跡の位置と周辺の遺跡(1/25,000)	2	第7図 第1文化層出土石器	10
第2図 常代遺跡周辺地形図(1/2,500)	5	第8図 第2文化層礫分布(1)	11
第3図 調査区全体図	6	第9図 第2文化層礫分布(2)	12
第4図 A区旧石器時代の石器集中地点及び礫群	8	第10図 1号柱穴列実測図	15
第5図 基本層序	8	第11図 2号土坑実測図	15
第6図 A区旧石器時代遺物出土状況	9	第12図 遺構外出土遺物	16

表 目 次

第1表 第2文化層礫群構成礫属性	13・14
------------------	-------

図版目次

図版1 遺跡周辺航空写真

図版2 遺跡遠景（A区）・（B区）・A区遺構検出状況

図版3 A区基本層序・遺構検出状況・第二文化層疊群

図版4 出土遺物(1)

図版5 出土遺物(2)

図版6 遺構外出土遺物

I はじめに

1 調査の概要

千葉県土木部君津土木事務所は、小糸川支流の宮下川の河川改修事業を計画し、事業区域内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した。その結果、工事を行う前に発掘調査を行い、遺構、遺物の記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが委託を受けて発掘調査を実施した。発掘調査は、平成8年8月に行われ、調査対象面積1,210m²のうち、急傾斜地及び開田により削平された部分を除く410m²の上層調査を実施した。A区が450m²の内50m²、B区が760m²の内360m²である。A区ではさらに16m²の下層本調査を実施した。

調査区A（常代地区）の現況は畑地である。（第2図）市道から調査区までは、宅地内及び水田のあぜ道を通らねばならず、バックホーが使用できないため表土除去は全員人手によって行った。初めに上層の堆積状況確認のため、幅1mのトレンチを南北に入れた。この結果、表土は約15cm～20cmで、耕作土の下はローム層であった。河岸の台地上の尾根を平坦に削平して畑と水田に利用していたため、上層の堆積土は耕作により攪乱されていた。調査区の西端が河岸の急な崖上の斜面に接し危険なため、安全に留意しながら50m²全域の上層の本調査を実施した。さらにトレンチのローム層内から疎数点を検出したので、下層の本調査も実施した。

調査区B（宮下地区）の現況は竹林と草地であったため、バックホーによって表土除去を行った。次に、堆積状況確認のため幅2m×20mのトレンチを南北に入れた。その結果、宮下地区土地区画整理事業に伴い、隣接の住宅地面より約70cm下まで山砂による盛土が行われていたことが判明した。現地表面より深さ約2mで旧表土の砂層面に達したが、砂中から、土器片を数点採集したのみで、ロームは認められず、遺構も検出されなかった。本調査区は宮下川旧河道に面し、近世には後述する高間屋敷に至る川沿いの道として利用されていたとのことであったが、攪乱が激しく道路と思われる遺構も確認はできなかった。

なお、遺構番号は、調査順に1号跡、2号跡のようにした。遺物の取上げについては、遺構に伴って出土したものは遺構内の通し番号で、取上げた。旧石器時代の遺物のうち、本調査区からの遺物は、出土地点を記録し取上げを行った。

2 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡周辺の地理的環境

常代遺跡は、千葉県君津市の北西部、周南地区常代及び宮下に所在し、千葉県第3位の河川である小糸川支流の宮下川東岸に位置する。小糸川は、上総丘陵の高宕山系に源を発する全長約27kmの河川で、蛇行しながら中流域で河岸段丘を形成し、下流域に至って広大な沖積平野を展開して、東京湾に至る。現在の小糸川沿岸の土地利用は、下流域に展開する水田地帯を始め、中流域の河岸段丘上にも水田耕作がその主流となっている。宮下川は、鹿野山山麓の作木・山高原を水源とし、北流して常代地区の北で小糸川に合流している。

常代遺跡は小糸川の支流宮下川の東岸に面した、標高約20mの台地上のA区と河岸の標高約14mの低地のB区からなる。

常代遺跡A区は、常代神社や常代神社古墳のある標高51mの小丘から続く標高約20mの台地の尾根の西



第1図 當代遺跡と周辺遺跡(国土地理院発行 1/25,000地形図)

端に位置する。宮下川による強い浸食のため現河面との比高差は大きい。本調査区のある台地上は常代の集落の中心部で家屋が集中している。

常代遺跡B区は、宮下川に架かる標高約15.5mの高間橋から標高約13mの川崎橋の間の氾濫原の東岸高間橋寄りに位置する。昭和40年代の土地区画整理事業によって宅地化した宮下地区の西端、宮下川の現河道に面した竹林に囲まれた小区画である。宮下川の川面からの比高は約1.5mから2mである。調査区から下流の川崎橋の間は既に河川改修工事が完了しており、往時の面影はない。また、上流の高間橋付近は河道の改修が行われている。調査区対岸の標高約16mの河岸段丘上には水田が広がっていたが、近年の土地区画整理事業の進捗に伴い宅地の造成が急速に行われており、様相が一変しつつある。B区のある宮下川の東岸の低地ではかつて広く水田耕作が行われていたが、土地区画整理事業により宅地造成が行われ住宅街が形成された。このため、地形がかなり改変されており、かつての面影は失われている。

(2) 遺跡周辺の歴史的環境

ア. 旧石器時代

小糸川北岸の丘陵上、君津市内箕輪字星谷上に位置する星谷上古墳¹¹では、ソフトローム層とハードローム層上面から、総数104点の石器が3か所に集中して出土している。近接する畠沢遺跡¹²では、角錐状石器を伴う石器ブロック・礫群を検出しており、ハードローム層上面から石器及び剥片が出土している。また、下流域の南岸丘陵上の富津市前三舟台遺跡¹³では、第Ⅰ黒色帯上部と第Ⅱ黒色帯上部で石器ブロックを数か所確認している。

イ. 繩文時代

前三舟台遺跡で草創期の隆起線文土器と砾・石器を主体とするブロックが調査されたほか、早・中・後期の土器片が出土している。君津市畠沢遺跡では、繩文時代早期前葉の燃系文系土器が出土している。君津市元秋葉台遺跡¹⁴では、中期後半加曾利EⅡ式の住居を検出しており、同畠沢遺跡でも、これに前後する時期の住居を検出している。

ウ. 弥生時代

弥生時代中期前葉では、君津市郡条里遺跡¹⁵から東海系の条痕文系土器が出土し、隣接する同市常代遺跡¹⁶では中期中葉須和田式から後葉の宮ノ台式までの方形周溝基群と水稻耕作に係る用水路及びその施設を検出している。君津市前三舟台・上野台¹⁷・元秋葉台遺跡では、中期末から後期の集落址が検出されている。

エ. 古墳時代～平安時代

小糸川下流域には、須恵国造の墓域とされる内裏塚古墳群が広がっている。中でも、5世紀中葉とされる内裏塚古墳は、県内最大の墳丘を有する前方後円墳である。常代遺跡A区の位置する小糸川南岸の小丘

-
1. 常代遺跡（当センター調査）
 2. 星谷上古墳
 3. 畠沢遺跡
 4. 前三舟台遺跡
 5. 上野台遺跡
 6. 下莊台遺跡
 7. 元秋葉台遺跡
 8. 郡条里遺跡
 9. 郡遺跡
 10. 常代遺跡（君津都市文化財センター調査）
 11. 外箕輪遺跡
 12. 九十九坊庵寺
 13. 常代神社古墳
 14. 奥中谷古墳群
 15. 川代台遺跡
 16. 八幡神社古墳群
 17. 豊山古墳
 18. 鹿島台遺跡
 19. 宮下遺跡
 20. 間の前遺跡・日影山横穴・高間屋敷跡

には、常代神社古墳があり、小谷をはさんだ前畠地区には、川代台遺跡や全長86mの前方後円墳である八幡神社古墳を含む八幡神社裏古墳群があり、南方には、六手中谷横穴群など、古墳時代の遺跡が数多く見られる。六手地区には、丘陵の突端部に前方後円墳である孤山古墳¹⁾があり、6世紀後葉の築造と推定されている。同じ丘陵上には6世紀代の前方後円墳1基、円墳3基からなる白駒古墳群²⁾などがある。常代遺跡B区の対岸の浜子・宮下の集落にも古墳が多く見られる。常代遺跡の南方、宮下地区西谷には、宮下西谷古墳群・宮下遺跡（縄文・古墳時代）があり、万所谷には南宮下遺跡（弥生時代・古墳時代）がある。常代遺跡B地区の対岸の丘陵上には、関ノ前遺跡・日影山横穴・高間屋敷跡³⁾があり、関ノ前遺跡からは、弥生時代中期の竪穴住居2軒、弥生時代の方形周溝墓2基、古墳時代の円墳1基を検出している。小糸川の南岸、宮下川が小糸川に合流する付近の河岸段丘上には、常代遺跡（5～10世紀）や郡遺跡（6～8世紀）の集落跡がある。これらのうち、郡遺跡⁴⁾は、從来周准郡衙比定地であったが、郡衙関連の遺構は検出されず、古墳時代後期の大型建物群が一部で調査された。また、外箕輪遺跡⁵⁾の8世紀の建物群は整然としており、至近位置に比定される東海道との関連から、駅家としての可能性も考えられている。外箕輪遺跡の北方には7世紀にさかのぼる九十九坊廃寺⁶⁾がある。

オ. 中世

外箕輪遺跡では12～14世紀の建物群、泉遺跡では11～14世紀の建物群、郡遺跡では13～14世紀の建物群、常代遺跡では13世紀代を中心とした建物群がそれぞれ検出されている。

カ. 近世

近世の遺跡は、調査数は少ないが、下流域では飯野陣屋⁷⁾、中流域では伝高間屋敷跡⁸⁾がある。高間屋敷は米問屋であった豪商高間伝兵衛の屋敷跡で、常代遺跡B地区とは高間橋をはさんで対岸に立地している。屋敷全体の面積5,233m²(1,586坪)の北側部分1,900m²が、君津都市文化財センターにより調査されている。

注 1 平野雅之 1985 「星谷上古墳・野間木戸古墳」（財）君津都市文化財センター

2 佐伯秀人 1989 「星谷上古墳・烟沢遺跡（第2次調査）」（財）君津都市文化財センター

3 佐伯秀人 1992 「前三舟台遺跡」（財）君津都市文化財センター

4 野中 徹 1977 「元秋葉台32号墳発掘調査報告書」君津市教育委員会

5 戸倉茂行 1995 「郡条里遺跡発掘調査報告書」（財）君津都市文化財センター

6 甲斐博幸ほか 1996 「常代遺跡群」（財）君津都市文化財センター

7 小高春男 1978 「上野台遺跡」『日本考古学会年報』29

8 甲斐博幸 1988 昭和63年度「君津市内遺跡発掘調査報告書」（財）君津都市文化財センター

9 葛西 功ほか1981 「白駒古墳」君津市教育委員会

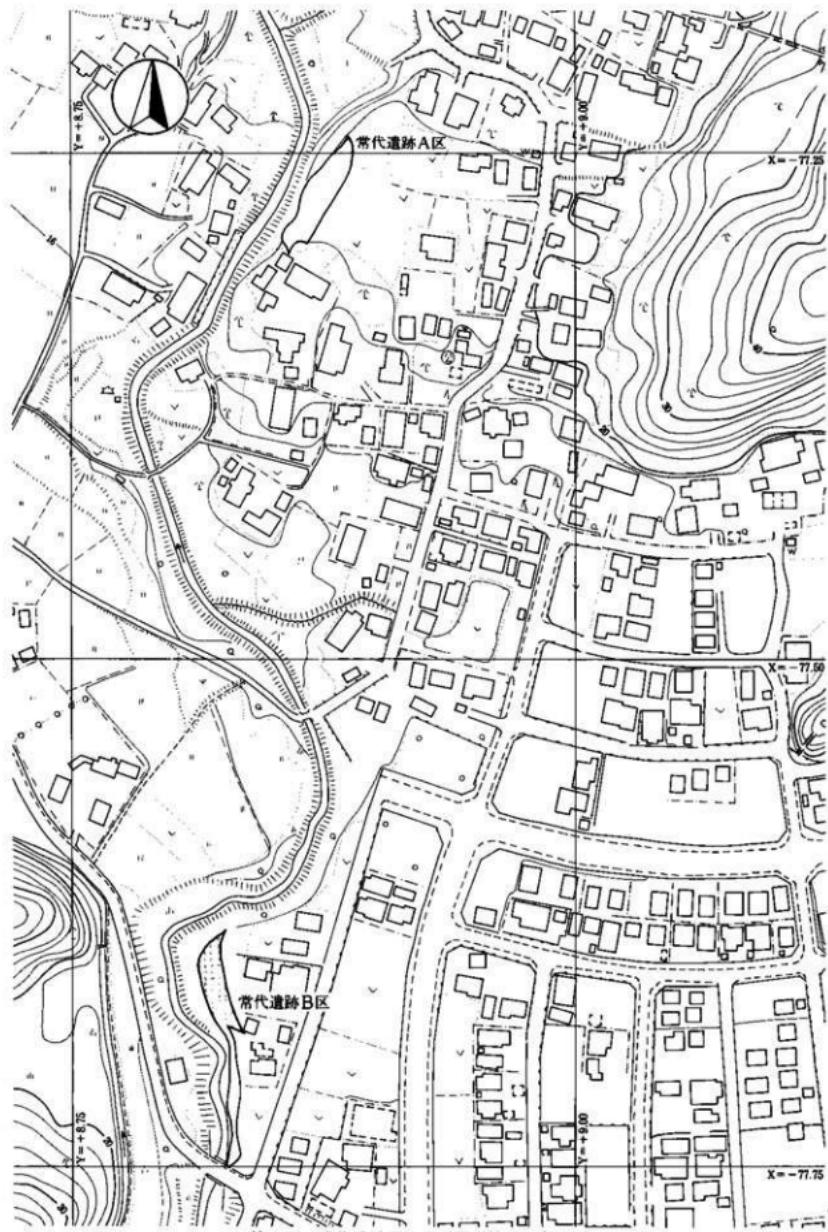
10 小高春男 1994 「郡遺跡群発掘調査報告書」君津市教育委員会

11 笹生 衛 1990 「外箕輪遺跡・八幡神社古墳発掘調査報告書」（財）千葉県文化財センター

12 森本和男 1985 「九十九坊廃寺確認調査報告書」（財）千葉県文化財センター

13 楠山林雄 1984 「飯野陣屋・稻荷口遺跡調査報告」稻荷口遺跡調査会

小沢 洋 1985 「飯野陣屋濠跡」富津市教育委員会

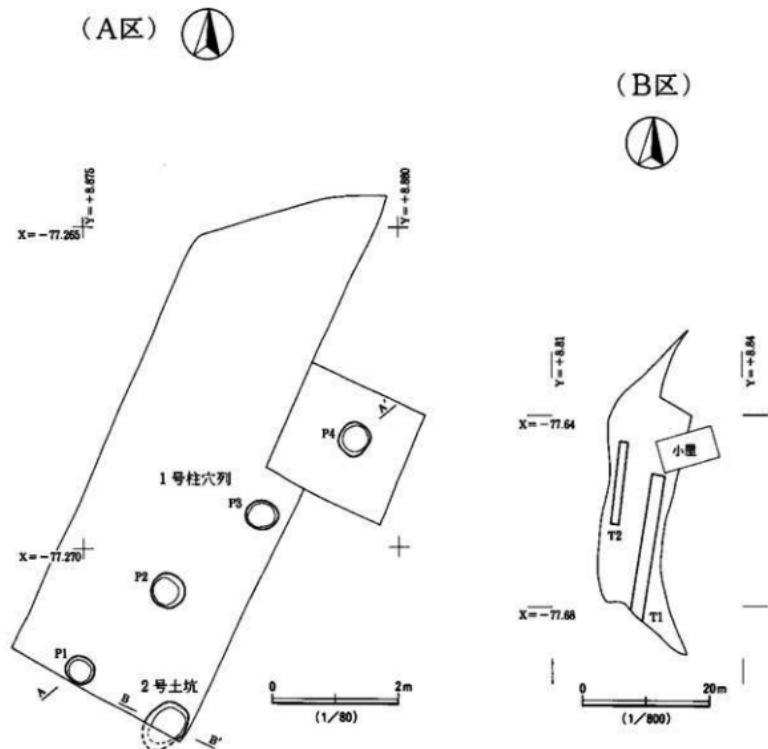


第2図 常代遺跡周辺地形図（縮尺1/2,500）

II 検出した遺構と遺物

1 調査成果の概要（第3図）

本遺跡の調査は、台地上のA区と低地のB区に分かれる。遺構はA区のみ検出された。検出した遺構は、旧石器時代では石器集中地点1か所と礫群1か所及び古墳時代以降の柱穴列1か所、土坑1基である。なお、柱穴列は調査区外に続いているため、地主の厚意により一部拡張した。遺物は、A区で旧石器時代の剥片7点と礫のはか、縄文時代の磨製石斧1点、土師器12点・砥石1点、中近世の陶磁器5点が出土した。B区からは、縄文土器2点、弥生土器14点、土師器10点と陶器片3点が出土した。



第3図 調査区全体図

2 旧石器時代

(1) 基本層序(第5図・図版3)

常代遺跡のA区では、通常の下総台地での立川ローム層の堆積とは異なり、同様の分層はできなかった。また、今回の調査によって得られた石器群からも識別はできなかった。したがって、調査時の観察をそのまま掲載する。

なお、土壤サンプルを採取したが、今回は分析していない。

1層は暗褐色で粒子の細かい黒土に径1mm以下のローム粒が混じり、締まりが少しあり粘りは少ない。2層は褐色土で、粒子の細かいロームに微細な砂が混じり固く締まる。3層は褐色土で2層より明るい色調で立川ローム層のM層に相当し、わずかに粘土質土を含む(Ma層)。4層は赤褐色で3層に多量の鉄分が混じり、粘りが少しある(Mb層)。5層は灰褐色土で白色粘土を多く含み、4層より白っぽく鉄分を少し含む。6層は褐色土で山砂を多量に含みやや赤みを帯び、粘りは少ない。7層は褐色土で6層より山砂の割合が多く粘りは少ない。8層は褐色土で6・7層より明るく山砂を主体にし、粘土が少し混じる。

(2) 石器群の概要(第4・6図)

常代遺跡では2枚の文化層が検出された。第1文化層は4層から6層にかけて7点の珪質頁岩と凝灰岩の剥片が見つかっている。第2文化層は6層から8層にかけて出土した礫群で、主に流紋岩・チャート・砂岩の3種類で構成されている。石器は見つかっていない。

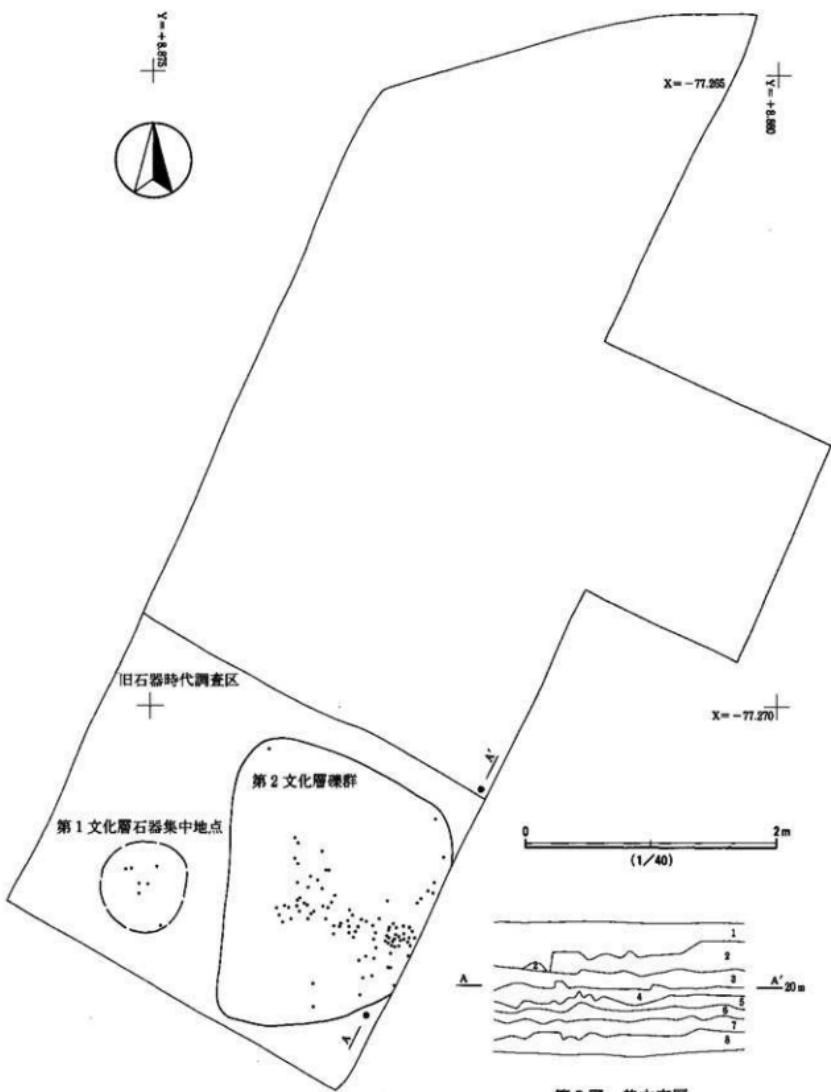
(3) 第1文化層(第6・7図、図版4)

石器群は4層から6層にかけて出土し、直径0.5mのほぼ円形にまとまっている。出土した剥片は8点で、接合資料は1資料である。剥片の何れにも赤化痕は認められなかった。1～5は灰褐色から黄褐色の珪質頁岩の剥片である。1は自然面を残し末端の形状はアーチ形である。長さ31mm、幅21mm、厚さ13mm、重量7.0gである。2は自然面を残し、長さ30mm、幅27mm、厚さ9mm、重量6.3gである。3は自然面を残し、長さ19mm、幅28mm、厚さ6mm、重量2.1gである。4はほぼ半分を欠損しており、長さ15mm、幅15mm、厚さ4mm、重量0.6gである。5は自然面を残し、長さ19mm、幅30mm、厚さ5mm、重量2.0gである。6・7は薄緑色の凝灰岩の剥片である。6は自然面を残し末端の形状は若干アーチ形を呈する。長さ29mm、幅37mm、厚さ18mm、重量11.8gである。7の裏面は節理としたが、自然面の可能性もある。石材の関係上剥離方向の観察は困難である。長さ19mm、幅19mm、厚さ6mm、重量1.4gである。

(4) 第2文化層(図8・9図、第1表、図版4・5)

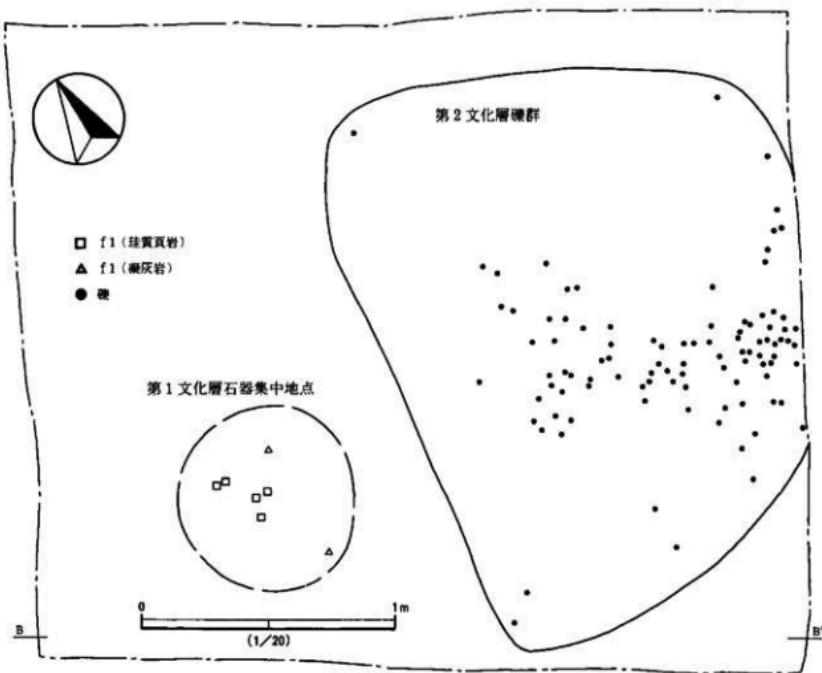
礫群は4から5層にかけて出土している。東西2m、南北2mの範囲にまとまっているが、東西には調査範囲外にまだ広がると思われる。各石材ごとに分布傾向に差がある。流紋岩が最もばらつきが少なく、砂岩が最も散漫な広がりを示している。なお、チャート9は1号柱穴群のP1の覆土上部から出土したもので、他のチャートの構成礫とは異なることから礫群に伴わないかもしれません。

また、A区トレンチからはほかにも礫が出土しているが、柱穴列の遺構確認面よりも上層の覆土から出土しており、旧石器時代の第2文化層の礫群とはレベル差が明らかなことから旧石器時代の本礫群に伴うものとはしなかった。

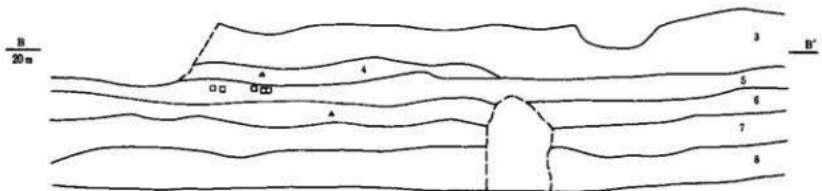


第5図 基本序層

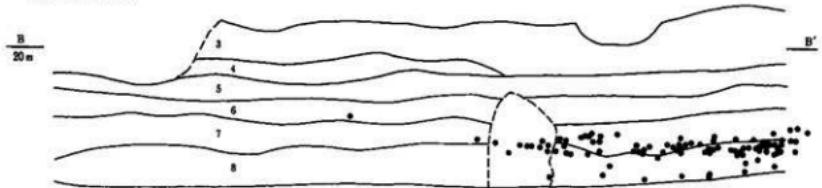
第4図 A区旧石器時代の石器集中地点及び礫群



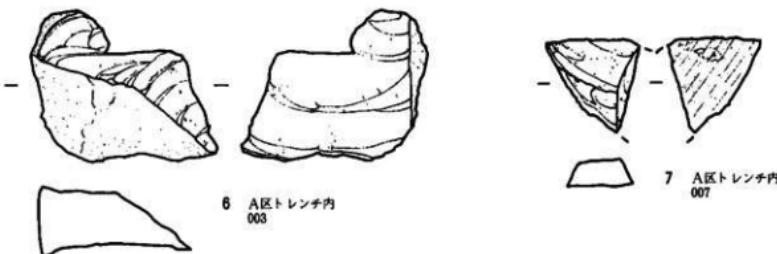
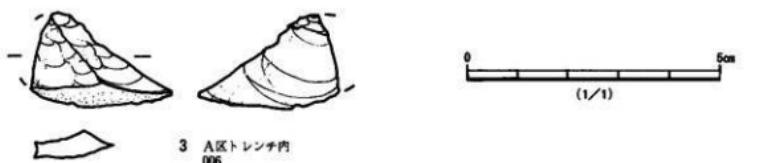
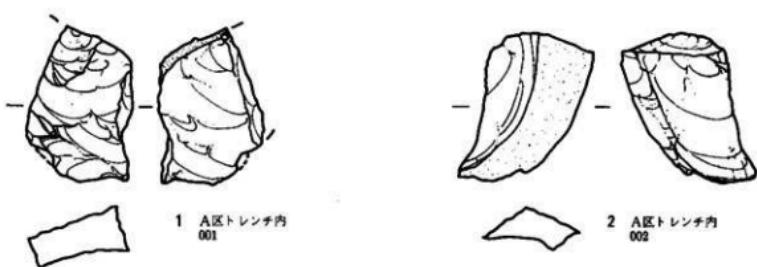
第1文化層石器集中地点



第2文化層礫群



第6図 A区旧石器時代遺物出土状況



第7図 第1文化層出土石器

流紋岩

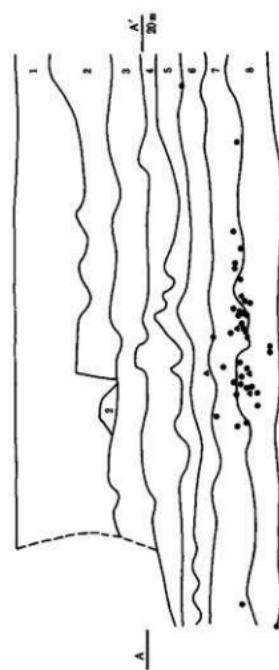
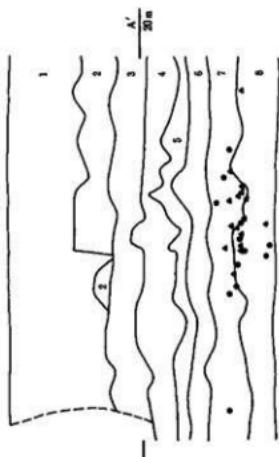
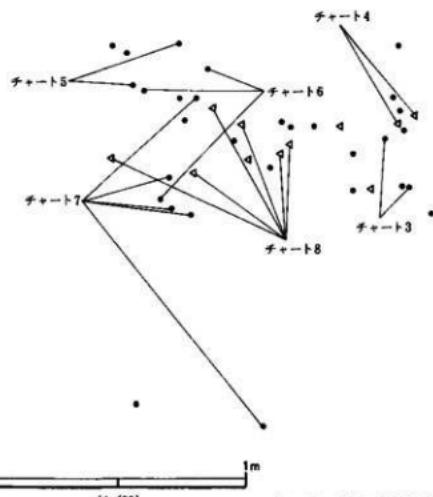


△ 水化鉄
● 非水化鉄

チャート



△ 水化鉄
● 非水化鉄



第8図 第2文化層礫分布(1)

砂岩



△ 赤化層

● 非赤化層

0 1m
(1/20)

その他

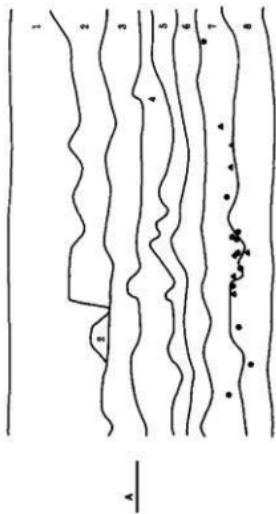


△ 赤化層

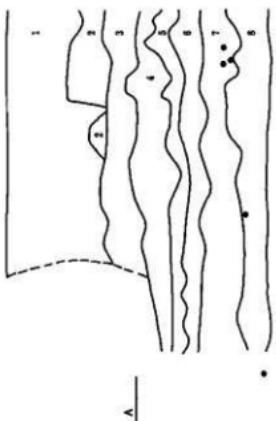
● 非赤化層

0 1m
(1/20)

< 20



< 20



第9図 第2文化層発分布(2)

第1表 第2文化層疊群構成礫属性(1)

母岩番号	遺物番号	遺存状況	破損復旧度	長	×	幅	×	厚	重量(g)	赤化度	黑色付着物	備考
流紋岩1	0 5 9 (2)	B	3/4	(6 9) ×	(6 1)	×	2 5	(1 1 1. 3)	+	-	2点接合	
流紋岩2	0 7 6 (2)	B	3/4	(5 3) ×	3 9	×	3 3	(6 5. 2)	+	-	2点接合	
流紋岩3	0 8 1 (2)	A	4/4	5 1	×	4 8	×	2 4	7 8. 0	+	-	2点接合
流紋岩4	0 2 1	B				6 7	×	(5 0)	(5 9. 8)	++	-	5点接合
流紋岩4	0 2 6											
流紋岩4	0 6 0											
流紋岩4	0 6 8											
流紋岩4	1 0 4											
流紋岩5	0 6 1 (7)	C	2/4	(5 3) ×	(5 6)	×	2 4	(6 9. 9)	+	-	7点接合	
流紋岩6	一括 (2)	C	1/4	(4 1) ×	(3 1)	×	(1 3)	(2 0. 4)	-	-	2点接合	
流紋岩7	一括 (2)	C	1/4	(5 4) ×	(1 8)	×	(2 8)	(3 2. 3)	++	-	破損面赤化、2点接合	
流紋岩8	0 3 1	A		6 8	×	5 0	×	3 2	1 3 7. 0	+	-	
流紋岩9	0 3 4	C		(4 9) ×	(4 5)	×	(2 6)	(6 9. 6)	+	-		
流紋岩10	0 3 6	A		4 3	×	2 8	×	2 5	3 6. 5	-	-	
流紋岩11	0 3 8	B		7 2	×	6 7	×	(5 1)	(2 6 7. 6)	+	+	
流紋岩12	0 3 9	A		5 2	×	3 3	×	2 6	5 1. 5	-	-	
流紋岩13	0 4 0	D		(4 0) ×	(3 0)	×	(1 3)	(1 5. 2)	-	+		
流紋岩14	0 4 2	D		(2 1) ×	(2 0)	×	(2 0)	(5. 5)	-	-		
流紋岩15	0 4 8	A		4 4	×	3 8	×	2 4	5 2. 8	++	+	
流紋岩16	0 5 1	A		5 8	×	3 5	×	1 7	4 1. 4	+	-	
流紋岩17	0 5 2	A		5 9	×	3 9	×	1 3	3 9. 0	-	+	
流紋岩18	0 5 6	B		8 4	×	6 2	×	(3 1)	(1 7 8. 7)	-	-	
流紋岩19	0 6 2	A		7 3	×	6 2	×	2 4	1 2 8. 1	++	+	
流紋岩20	0 6 3	A		5 1	×	3 8	×	2 1	5 7. 8	-	+	
流紋岩21	0 6 4	A		4 5	×	3 8	×	2 0	4 2. 9	-	-	
流紋岩22	0 7 0	A		3 2	×	3 1	×	1 8	2 4. 8	-	-	
流紋岩23	0 7 1	A		4 8	×	2 4	×	2 4	3 8. 7	+	-	
流紋岩24	0 8 0	A		6 0	×	4 9	×	3 5	1 1 3. 9	+	-	
流紋岩25	0 8 2	A		5 5	×	4 3	×	3 0	7 1. 0	+	+	
流紋岩26	0 8 4	A		4 8	×	3 6	×	2 2	4 8. 4	+	-	
流紋岩27	1 0 2	A		6 4	×	5 9	×	3 0	1 1 8. 6	+	+	
チリ-1	0 9 6 (3)	A	4/4	6 8	×	4 5	×	2 2	9 9. 2	-	-	3点接合
チリ-2	0 9 4 (3)	A	4/4	5 5	×	2 7	×	2 3	4 4. 7	-	-	3点接合
チリ-3	0 8 3 (4)	C	1/4	(3 6) ×	(3 5)	×	(2 7)	(3 9. 9)	-	-	4点接合	
チリ-3	0 9 1	D		(3 6) ×	(2 3)	×	(7)	(5. 4)	-	-		
チリ-4	0 4 7	B	2/4	(5 4) ×	(3 4)	×	(1 7)	(3 9. 3)	+	-	2点接合	
チリ-4	0 5 3											
チリ-5	0 1 4	A	4/4	6 3	×	3 9	×	2 7	8 8. 3	-	-	2点接合
チリ-5	0 9 7											
チリ-6	0 1 3	B	3/4	(4 9) ×	(2 7)	×	3 2	(4 7. 1)	-	-	5点接合	
チリ-6	0 1 5 (2)											
チリ-6	0 6 6											
チリ-6	一括											
チリ-7	0 0 9	B	3/4	6 3	×	5 3	×	(2 6)	(1 1 1. 4)	-	-	5点接合
チリ-7	0 1 0											
チリ-7	0 1 1											
チリ-7	0 1 6											
チリ-7	1 0 5											
チリ-8	0 0 8	B	3/4	(9 4) ×	8 6	×	4 7	(4 7 5. 5)	+	-	8点接合	
チリ-8	0 1 9											
チリ-8	0 2 2 (2)											
チリ-8	0 2 5											
チリ-8	0 2 8											
チリ-8	0 4 3 (2)											
チリ-9	P1-001 (4)	C	1/4	(4 9) ×	(3 8)	×	(2 8)	(4 5. 8)	-	-	4点接合	
チリ-10	0 0 1 7	A		4 9	×	3 8	×	2 3	5 8. 6	-	-	
チリ-11	0 1 8	A		4 5	×	3 6	×	2 8	5 9. 4	-	-	
チリ-12	0 2 4	A		4 4	×	4 3	×	2 4	5 8. 4	+	-	
チリ-13	0 2 7	A		4 5	×	2 9	×	2 1	3 6. 5	-	-	
チリ-14	0 3 0	A		7 0	×	4 8	×	3 9	1 4 2. 4	-	-	
チリ-15	0 3 7	A		3 7	×	3 1	×	2 3	3 2. 7	-	-	
チリ-16	0 4 1	A		3 1	×	2 9	×	2 4	2 6. 1	-	-	
チリ-17	0 4 5	A		4 5	×	3 7	×	2 2	5 3. 8	-	-	
チリ-18	0 5 0	A		5 7	×	4 2	×	2 0	7 9. 7	+	-	
チリ-19	0 5 4	A		7 1	×	4 0	×	3 1	1 1 2. 6	-	-	
チリ-20	0 5 7	B		6 1	×	(4 6)	×	4 2	(1 3 1. 2)	+	-	
チリ-21	0 5 8	A		4 7	×	3 9	×	3 3	7 0. 3	+	-	
チリ-22	0 6 7	A		4 5	×	3 2	×	2 0	3 7. 0	-	-	
チリ-23	0 6 9	B		4 4	×	4 0	×	(1 9)	(5 1. 1)	-	-	
チリ-24	0 7 4	A		5 0	×	4 2	×	3 0	7 5. 9	+	-	

第1表 第2文化層礫群構成礫属性(2)

母岩番号	遺物番号	遺存状況	破損復旧度	長	×	幅	×	厚	重量(g)	赤化度	黒色付着物	備考
チ+ト-1 2 5	0 7 8	A		5.0	×	3.6	×	2.8	63.1	-	-	
チ+ト-1 2 6	0 8 6	B		5.9	×	3.4	×	(3.6)	(96.4)	-	-	
チ+ト-1 2 7	0 8 9	D		(1.9)	×	(1.1)	×	(4)	(1.3)	-	-	
チ+ト-1 2 8	0 9 0	A		3.9	×	2.9	×	1.9	25.7	-	-	
チ+ト-1 2 9	0 9 3	A		4.9	×	2.9	×	2.9	45.2	-	-	
チ+ト-1 3 0	0 9 5	A		3.0	×	2.3	×	1.4	11.2	-	-	
チ+ト-1 3 1	0 9 8	A		5.7	×	3.4	×	3.2	84.2	+	-	
チ+ト-1 3 2	1 0 3	D		(1.6)	×	(1.5)	×	(7)	(24)	-	-	
砂 岩 1	0 7 9 (2)	A	4/4	4.5	×	3.9	×	3.3	61.3	-	-	2点接合
砂 岩 2	0 5 5 (2)	A	4/4	5.3	×	4.3	×	3.3	94.6	-	-	2点接合
砂 岩 3	0 2 0	A		3.8	×	2.7	×	2.5	36.2	-	-	
砂 岩 4	0 2 3	B		(4.8)	×	4.6	×	(3.6)	(97.9)	-	-	
砂 岩 5	0 2 9	A		4.8	×	3.4	×	2.9	62.0	+	-	
砂 岩 6	0 3 2	A		7.2	×	5.3	×	2.6	118.6	+	-	
砂 岩 7	0 3 3	A		4.0	×	3.6	×	2.1	38.3	-	-	
砂 岩 8	0 4 4	B		(8.9)	×	(5.0)	×	(2.5)	(142.2)	+	-	
砂 岩 9	0 4 9	D		(3.1)	×	(1.4)	×	(1.5)	(8.0)	+	-	
砂 岩 10	0 6 5	B		(7.5)	×	3.5	×	1.6	(56.0)	-	-	
砂 岩 11	0 7 3	D		(2.6)	×	(1.8)	×	(.8)	(4.0)	-	-	
砂 岩 12	0 7 5	A		5.5	×	3.4	×	1.2	30.6	-	-	
砂 岩 13	0 7 7	A		5.1	×	3.9	×	1.9	51.3	-	-	
砂 岩 14	0 8 5	A		4.8	×	3.2	×	1.6	31.1	-	-	
砂 岩 15	0 8 7	A		5.4	×	2.7	×	1.0	13.4	-	-	
砂 岩 16	0 8 8	A		3.0	×	2.5	×	2.3	22.5	+	-	
砂 岩 17	0 9 2	A		4.3	×	3.3	×	3.2	63.4	-	-	
砂 岩 18	0 9 9	A		7.8	×	4.0	×	3.9	161.1	+	-	
砂 岩 19	1 0 0	A		7.1	×	5.5	×	3.8	208.2	+	+	
砂 岩 20	1 0 1	D		(3.3)	×	(2.8)	×	(2.2)	(16.7)	+	-	
泥 岩 1	0 1 2	A		2.1	×	9	×	9	1.5	-	-	
泥 岩 2	0 3 5	A		8.0	×	5.0	×	2.2	95.5	-	-	泥質
泥 岩 3	0 4 6	A		5.6	×	3.4	×	2.7	66.0	-	-	泥質
泥灰質砂岩 1	7 2	A		4.8	×	4.6	×	2.8	80.3	-	-	
泥灰質砂岩 1	0 6	A		6.3	×	4.5	×	2.6	33.6	-	-	

凡例

遺物番号: 「A区トレンチ内」の注記は記載していない

遺存状況: Aは完存

Bは50%以上遺存

Cは50%未満遺存

Dは破片

長・幅・重量: 破損しているものには()をつけた

赤化度等: -は該当しない

+は該当する

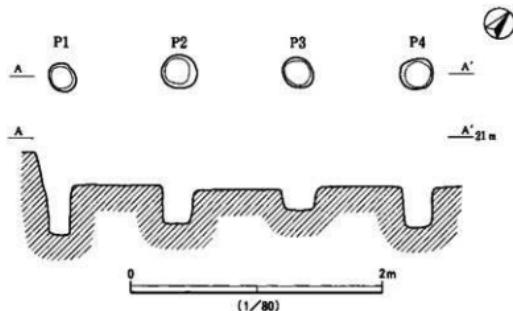
++は特に顯著

3 旧石器時代以降

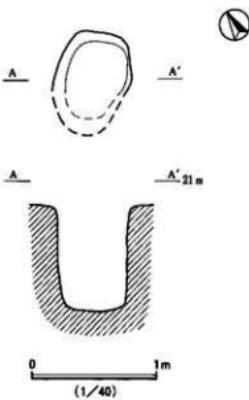
(1) 遺構

1号柱穴列(第10図、図版2)

4個の円形の小ピットが直列し、柱穴列と考えられる遺構である。P1は直径44cm、確認面からの深さ76cm、P2は直径56cm、深さ56cm、P3は直径52cm、深さ32cm、P4は直径50cm、深さ60cmであった。柱穴列の方向は北から東方向に45~50度傾いている。柱穴間の距離は、P1,2の間が1.9m、P2,3の間が1.96m、P3,4間が1.9mである。柱穴列の西側調査区内には柱穴が認められず、据立柱建物は東方の調査区外に続くものと考えられる。

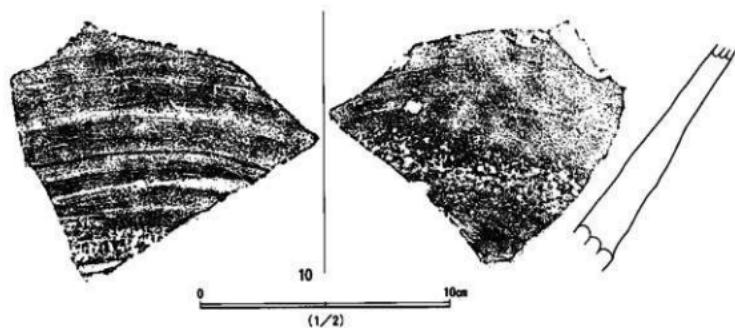
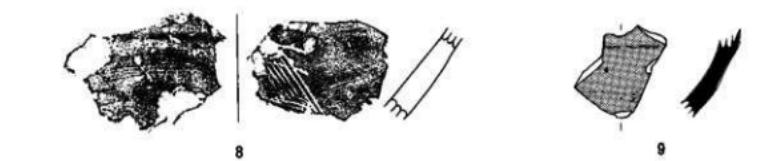
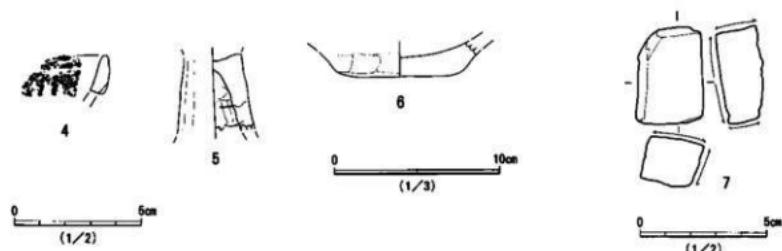
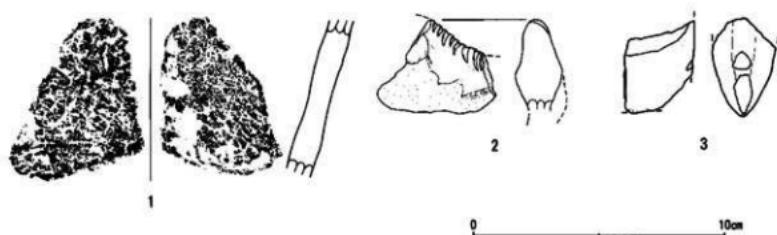


第10図 1号柱穴列実測図



第11図 2号土坑実測図

土坑は、調査区の南端、柱穴列の東に位置する。平面形は長椭円形を呈し、短径約60cm、長径約80cm、確認面からの掘込みの深さは約88cmである。断面形は逆台形で覆土中に木炭粒と焼土粒を含む。遺物は検出されず時代は不明である。



第12図 遺構外出土遺物

(2) 造構外出土遺物（第12図・図版6）

1はB区トレンチ内砂層出土の土器の破片で摩滅が甚しく、文様などは不明であるが、胎土に纖維を含み、縄文時代前期のものと考えられる。

2はB区トレンチ内砂層出土の縄文時代中期中葉の土器の口縁破片で、胎土は石英・長石粒を多量に含む。

3はA区トレンチ内出土の磨製石斧の刃部片である。両面はよく研磨されているようだが、側面との境ははっきりしない。刃部の先端部は若干色が変質し摩耗しており、使用痕の可能性も考えられる。石材は砂岩（中粒）で、長さ37mm、幅24mm、厚さ20mm、重量25.9gである。

4はB区トレンチ内砂層出土の弥生時代後期の土器の口縁部の破片である。小破片であるため器種ははっきりしないが、口縁は折返しで下端部に刻みをもつことから、壺あるいは鉢の一部と考えられる。胎土は石英等のやや大きめの砂粒を含む。色調は橙色(5YR-6/6)を呈し焼成は不良である。

5はA区トレンチ出土の土師器の高壺脚部の破片で、縦方向にナデを施した痕跡をとどめるが、全体に摩滅している。

6はA区トレンチ出土の土師器の壺の底部である。胎土は砂質でスコリアを少量含む。

7はA区トレンチ出土の砥石で、全体的に摩耗していて研いだ方向は不明であるが、6面の内4面を使用したものと考えられる。

8はB区トレンチ内砂層から出土した中世の瀬戸系播鉢破片である。

9はB区トレンチ内砂層から出土した中世の天目茶碗の体部破片である。

10はB区トレンチ内砂層のから出土した中世の広口鉢の体部破片である。一部内面上半分に自然釉が見られる。

11はA区トレンチ内出土の土製品で摩滅が著しく本来の形状をとどめていないと思われる。片側には中心部に内径約2mm・深さ約35mmの穿孔があり、整形のあとが見られる。反対側にも穿孔を試みたあとがある（図版のみ掲載）。

III まとめ

今回の調査は、宮下川の右岸台地上のA区と低地のB区という、立地条件の異なる2つの地点を調査したものであるが、台地上のA区で旧石器時代の2つの文化層を検出するなど、本地域の旧石器時代を知る上で貴重な資料が得られた。

旧石器時代

旧石器時代では、A区で2つの文化層が検出された。第1文化層は4～6層から7点の珪質頁岩と凝灰岩の剥片が見つかった。調査区の南端部分で検出しておりさらに南の部分に広がる可能性が考えられたが、既に削平されており確認することはできなかった。第2文化層は6～8層から約100点の礫群が検出された。今回の調査では石器は見つかっていないが、礫群は調査区の東部に広がることが十分に予想され、常代遺跡A区の立地する台地上からは旧石器時代の遺構などが検出される可能性が考えられる。小糸川南岸の台地上からの礫群の発見例として貴重な資料を得られたものと考えられる。しかし、土層の分析が不完全であり、今後の検討課題である。

縄文時代

縄文時代では、B区トレンチ内から前期・中期の土器片が各1点ずつ出土しているが、宮下川の氾濫原に立地することと、本遺跡内に遺構が確認されていないため、上流域からの土砂流によって運ばれたものと考えられる。宮下川流域の遺跡群との関連が考えられるが、現在のところは不明である。

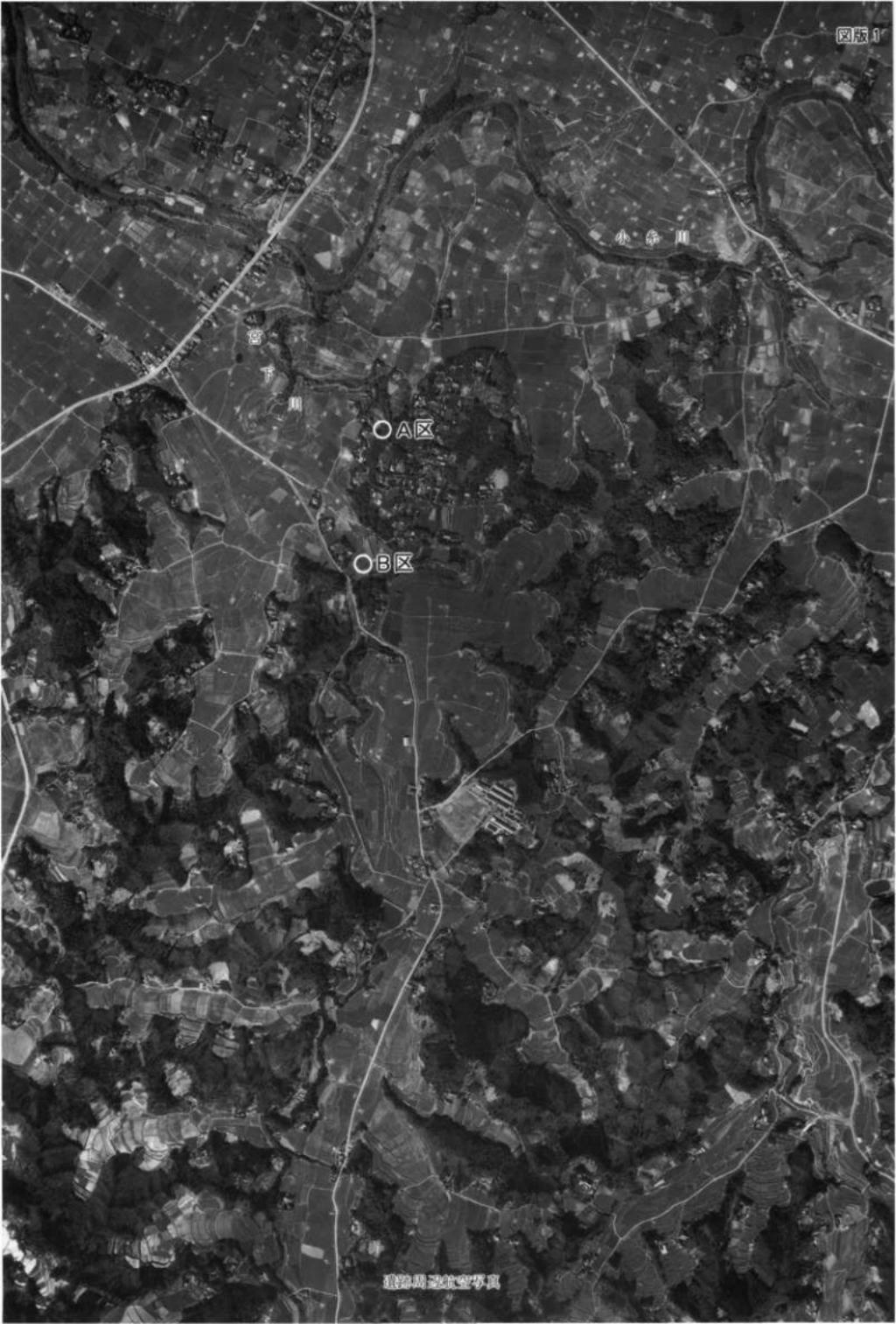
弥生時代

弥生時代では、B区トレンチ内から13点の弥生土器片が出土しているが、いずれも小さな破片で磨滅が著しい。

古墳時代以降

古墳時代では、A区トレンチ内から土師器12点、砥石1点を検出した。検出された柱穴列・土坑の時代は不明であるが、調査区外に広がることから、A区を含む台地上には古代集落が存在する可能性が高い。

なお、中世の遺物として、陶器片が検出されたが、時期の詳細は不明である。





遺跡遠景（A区）



遺跡遠景（B区）



A区遺構検出状況



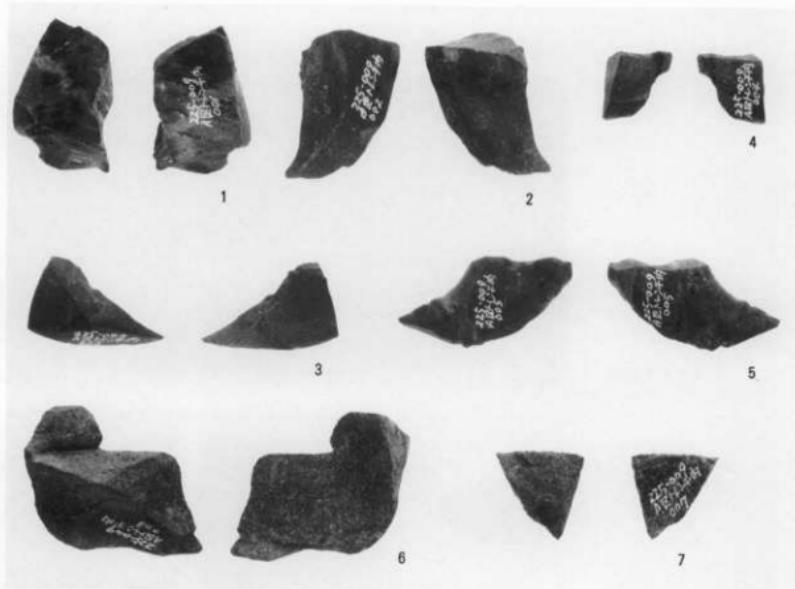
A区基本層序



上 第2文化層
下 第1文化層



第2文化層礫群

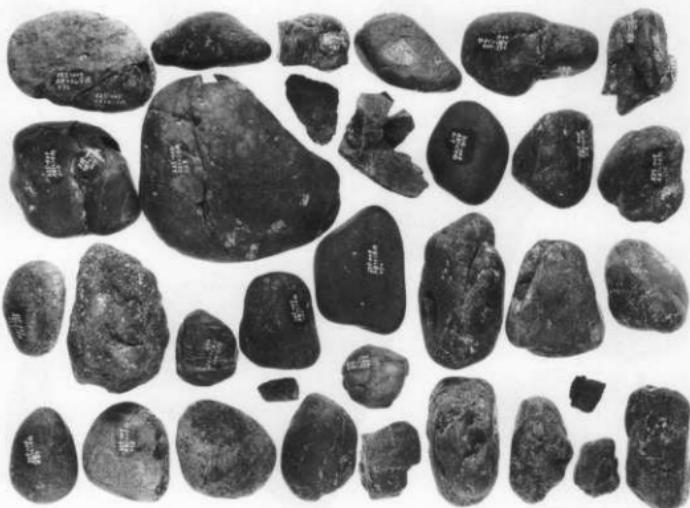


第1文化層出土石器



第2文化層出土礫 (流紋岩)

出土遺物 (1)



第2文化層出土礫（チャート）



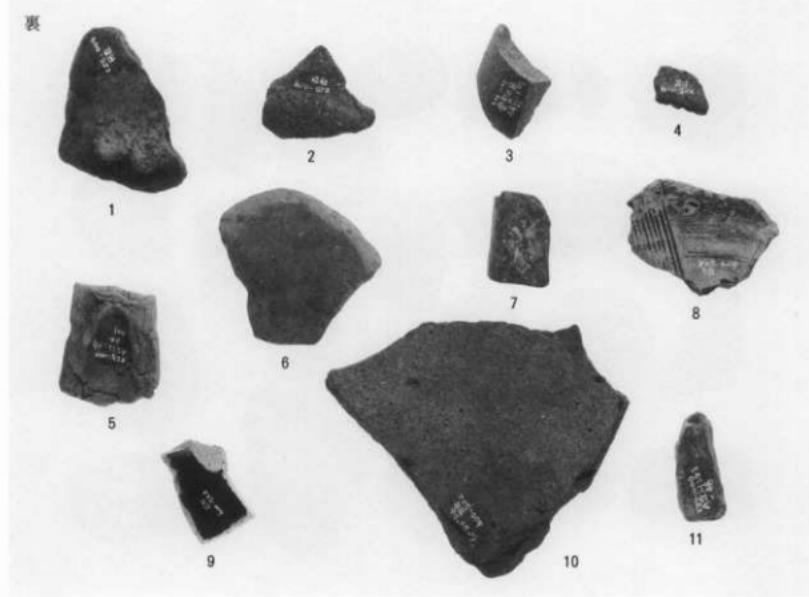
第2文化層出土礫（砂岩・その他）

出土遺物（2）

表



裏



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	きみつしとこしろいせき								
書名	君津市常代遺跡								
副書名	宮下川河川改修埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告								
シリーズ番号	第310集								
編著者名	山田孝雄								
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター								
所在地	〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL043-422-8811								
発行年月日	西暦 1997年3月31日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村	北緯 遺跡番号	東経 °'."	調査期間	調査面積 m ²	調査原因		
常代遺跡	千葉県君津市 常代845 宮下8街区8	225	009	35度 18分 04秒	139度 55分 48秒	19960801～ 19960826	426	河川改修に 伴う事前調 査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
常代遺跡	旧石器時代	石器集中地点 砾群	1か所	剥片 砾					
			1か所	繩文土器(中期) 磨製石斧					
	弥生時代			弥生土器					
				土師器・砥石					
	古墳時代以降	柱穴列 土坑	1列 1基	陶器					

千葉県文化財センター調査報告第310集

君津市常代遺跡

宮下川河川改修埋蔵文化財調査報告書

平成9年3月31日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千葉県土木部
千葉市中央区市場町1-1

財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印 刷 大和美術印刷株式会社
木更津市潮浜2-1-10
